

「学びに向かう力」の育成～「主体的な学び」へ導く学習指導の工夫～

5月21日(火) 徳淵

5月16日(木) 2年3組 大研事前研より

先週の第5回校内研、野口先生には運動会期間中にも関わらず、模擬授業の形で授業提案をしていただきました。研究主任の時間設定が悪く、十分な検討時間を取れずに申し訳ありませんでした。

さて、事前研の中で出された2点について考えてみました。

1. 事前の意識調査で否定的回答をしていた児童への手立て

どの学級にも学習そのものやある教科に対し、「苦手」「分からない」といった否定的な思いをもつ児童はいます。では、教科学習の中でそのような児童に対してどのような手立てがあるのでしょうか。即効性のある手立ては今の私の中にはありません。授業作りの視点として私が大事にしているのは「分かった」と「楽しさ」です。

一つ目の「分かった」は、単に「問題が分かった！」だけではありません。「分からない時にどうしたらいいか、ちょっと分かった。」「自分の考えを伝える方法が何となく分かった。」など、学び方についても含むべきだと考えます。

二つ目の「楽しさ」は、ゲーム感覚のようなものではなく、「知的な楽しさ」を追究したいです。教科学習の「知的な楽しさ」には、「分からない・迷う楽しさ」が必要不可欠だと私は考えています。問題をみんなで考え、解決していくような授業を児童に経験させるべきだと思います。

以上のことから、次のような授業作りの視点をもってみるのはどうでしょうか。

- ① 「今日は～な学び方をさせたい」という視点でも授業を考え、実際どんな学び方をしているかを見とり、評価する(褒める)。
- ② 授業の中で児童が「分からない」「迷う」場面で教師が慌てない。そのためには、意図的な「分からない」「迷う」場面を設定する必要がある。

2. ペアやグループ活動

多くの先生が授業の中で取り入れられているものです。本通信では「学び合い」と「教え合い」として考えたいと思います。ちなみに、両者の違いは明確に定義付けしてはありません…。

	学び合い	教え合い
授業のスタイル	探究や表現の共有がなされる	目標達成のためになされる
終わった後	意見はまとまらない。ペアやグループで出し合ったものを基に、個々で考えをもつ。	意見は一つに集約される。
タイミング	児童の学習の様子を見て、臨機応変に入れる。	教師の計画した場面に入れる。
児童の育ち	自ら聞いたり、考えたり、話し合おうとしたりする児童に。	声を掛けられることを、期待して待つ児童に。

学び合いは児童主体で展開されるもので、教え合いは教師主体で促されるものだと思います。

以上2点について私が考えたことをまとめさせていただきました。今後授業研等の中で、それぞれの学級の児童の実際の姿を出し合いながら、深めていければと思います。

参考資料：「学び合い」と「教え合い」の違い(神宮司 竹雄)【web上で検索出来ます】